

解答

③

まず、傍線部冒頭にある「若」の字に注目しよう。「若」には、Ⅰ比況形で「じやく」、Ⅱ「不」ともなつて比較形で「しかず」、Ⅲ仮定形で「もし」、Ⅳ副詞で「もしくは」などの訓みがある。選択肢を見ると、漢文では「わかし」とは訓まないもので、「若くして」とある①・②は誤り。また、「しかず」と訓む場合は語順は「不若」だから⑥も誤りである。

次に、再読文字の「応」がポイントだ。「まさに」(すべし)と訓み、「きつと」に違くない」の意である。残る③・④・⑤を見ると、「応じて」と訓んでいる④は誤り。また、⑤も意味に「応」の要素が含まれていない。よって、③が正解と判定できる。

解釈しよう。③の「若」の訓みが「もし」であるとおり、ここでは仮定形である。楚材の妻の薛媛は、絵画の腕をふるい、髪も抜け衰えた自分の容姿を描いて送ったからこそ、楚材は長官の娘との縁談を受けようとした自分を恥じ、妻のもとに戻ってきた。傍線部は、これを裏返して、仮定として「もしも妻が絵画の腕をふるわなかったら、今も夫は帰って来ず、きっと部屋にひとりぼっちだったに違いない」と述べているのである。

選択肢チェック

仮定「もし」

再読文字「まさに」(すべし)

問

傍線部A「若」不逞丹青、空房「応」独守。」の、読み方とその意味として最も適当なものを、次の①～⑥のうちから一つ選べ。

漢文では
「わかし」とは訓まない！

- ① 「若くして丹青を逞しくせざれば、空房応に独り守るべし。」
と読み、「若いときに絵画の腕を磨かなかつたなら、夫のいない部屋でひとりぼっちでいることになつただろう。」という意味。
- ② 「若くして丹青を逞しくせざれば、空房に「応じて独り守るのみ。」と読み、「若いときに絵画の腕を磨かなかつたので、夫のいない部屋で来客の応対をしてひとり家を守っている。」という意味。

- ③ 「若し丹青を逞しくせざれば、空房応に独り守るべし。」と読み、「もしも絵画の腕をふるわなかつたなら、夫のいない部屋でひとりぼっちでいることになつただろう。」という意味。

④ 「若しくは丹青を遅しくせずして、空房に^x応じて独り守るのみ。」と読み、「あるいは絵画の腕を磨かなかったせいなのか、夫のいない部屋で来客の応対をしてひとり家を守っている。」という意味。

⑤ 「丹青を遅しくせずして、空房に独り守るべきが若し。」と読み、「^x絵画の腕を磨かないで、夫のいない部屋でひとりぼっちでいるようなものである。」という意味。

⑥ 「丹青を遅しくして、空房に^x応じて独り守るに若かず。」と読み、「絵画の腕をふるって、夫のいない部屋で来客の応対をしてひとり家を守っているほうがましである。」という意味。

「応」の意味が含まれていない

「しかず」と訓む場合の語順は「不若」

書き下し文

其の妻薛媛書画を善くし、文を属るに妙なり。楚材の糟糠の情を念はず、別に糸蘿の託に倚らんとするを知り、鏡に対ひて自ら其の形を図ぎ、詩四韻を并せて以て之に寄す。楚材妻の真及び詩を得て恋を懐き、遽かに雋不疑の譲有り。夫婦遂に偕に老ゆ。里語に曰はく、
 当時^{たうし}夫婦^{ふふう}を棄^すて、今日^{こんにち}夫婦^{ふふう}を離^{はな}す。若し丹青^{たんたん}を遅^{おそ}くせざれば、空房^{くうぼう}に独^{ひと}り守^{まも}るべしと。

現代語訳

楚材の妻の薛媛は書と絵画が上手く、文章力もあった。薛媛は、夫の楚材が苦勞をともにしてきた私の気持ちを忘れ、別の女性と結婚しようとしていることを知り、鏡に向かって自分の容姿を描き、律詩もあわせて楚材に送った。
 楚材は妻の肖像画と詩を受け取って恥じ入り、あわてて雋不疑のように縁談を断った。結局夫婦は老いるまでもに暮らした。人びとが言いはやすには、
 「昔は妻が夫を見捨てたが、今は夫が妻を離縁する。妻が絵画の腕をふるわなかったなら、夫のいない部屋でひとりぼっちでいることになっただろう」と。

重要語句

□ 糟糠

酒糟や米糠のこと。「糟糠の妻」で、「粗末な食事で苦勞をともにしてきた妻」の意を表わす。本文では、「糟糠之情」で「妻の気持ち」の意。